

草津市産業振興計画に関連する取組について  
(立命館大学)

関連する項目	戦略1：イノベーションの創出支援
	施策（2）：スタートアップ企業等の集積促進
	主な取組事例： -

グラスルーツ・イノベーションの実践

2030年代に立命館大学が目指すべき大学のあり方として、研究活動を通じて社会課題を解決し、社会的価値を創出する「次世代研究大学」の実現を目指している。このため、2021年6月にオープンイノベーションを通じた起業・事業化をワンストップで推進する起業・事業化推進室を立ち上げ、各部門にてそれぞれ実施してきた研究シーズの事業化とアントレプレナーシッププログラムを社会実装の取り組みの中で連動させ、社会還元に結びつけるプロジェクトの起ち上げに着手した。



起業・事業化推進室では、「グラスルーツ・イノベーション（草の根型産学官地連携）」をスローガンに掲げ、課題解決を必要とする地域、場所に研究者・学生が赴き、その場で実装し、システムとして根付かせる研究・地域連携の新たなアプローチとなる「グラスルーツ・イノベーションプログラム（GRIP）」を2021年より大学独自予算により支援している（年間予算1,500万円、3年間で43プロジェクトを支援）。

**グラスルーツ・イノベーションとは？**

グラスルーツ・イノベーションとは、課題解決を必要とする地域・場所に赴き、その場で研究成果を実装し、システムとして根付かせる「草の根型」の研究・地域連携の実践を指す。

人文社会科学や自然科学といった研究分野を問わず、本大学の研究成果を利用した、地域での実証実験や、地域課題の発見・抽出のためのワークショップ・調査等により「総合知」「実践知」の蓄積に資する活動を広く支援する。

▽グラスルーツ・イノベーションプログラム (GRIP) を立ち上げ、研究助成を開始 (1件あたり50~100万円を支援)



これらの取り組みを基盤に、経済産業省 令和4年度「地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備」の採択を受けて「グラスルーツ・イノベーションセンター (GIC)」を新たに建設することとなった。同センターを拠点に産学官に地域・市民を交えた多角的なオープンイノベーション・プラットフォームの形成に取り組み、社会課題の解決と社会実装に資する研究シーズを抽出・結合させることで、グラスルーツ・イノベーションの名に相応しいスタートアップの創出を目指す。

